

香川県総合防除実践指標（レタス）

No.	予防	判断	防除	実践項目 対象病害虫・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄	
							実施目標	実施状況
1	○			育苗圃周辺の管理	ハスモンヨトウ、タバコガ類、アブラムシ類、ヒメフタテンヨコバイ等の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
2	○			健全苗の育成	以下の事項を実施して健全育苗に努め、病気が発生した苗は早く処分する。（実施できた対策の数に応じて1点～5点） 育苗資材を消毒する。 土壌と物理的距離を保つ。 育苗中の温湿度管理に注意する。 育苗圃周辺を防虫ネット等の隔壁で遮断するか、シルバーテープを設置して害虫の飛来を防ぐ。 苗床は無病土を使用する。	1 ～ 5		
3	○			本圃周辺の管理	ハスモンヨトウ、タバコガ類、アブラムシ類、ヒメフタテンヨコバイ等の侵入防止のため、周辺雑草を除去する。	1		
4			○	雑草対策	機械除草など化学農薬によらない雑草管理対策を実施する。	1		
5		○		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報を入力し、確認する。	1		
6		○	○	防除要否の判断	べと病、斑点細菌病、ハスモンヨトウ、アブラムシ類、ヨコバイ類は圃場間差、年次変動が大きいので発生状況を確認し、防除を行う。 （確認して防除した病害虫の数に応じて1点～5点）	1 ～ 5		
7	○			レタスビッグベイン病対策	前年度の発病程度や土壌のpHに応じて防除対策を行う。 微発生：抵抗性品種の導入 少発生：抵抗性品種＋薬液灌注処理 中発生以上：抵抗性品種＋薬液灌注処理＋作型の移動	1		
8	○				発生圃場の土壌は圃場外に持ち出さない。（拡大防止対策）	1		
9	○				トラクター等の農機具や長靴等の洗浄・消毒を徹底する。	1		
10	○				抵抗性品種を導入する。	1		
11	○				太陽熱等の土壌消毒を行う。	1		
12	○				ネギやアブラナ科野菜等との輪作を行う。	1		
13		○	○	灰色かび病対策	適期防除を行う（生育初期）。	1		
14		○	○	菌核病対策	適期防除を行う。 9～10月定植：定植20～30日後 11～12月定植：定植7日以内	1		
15	○				高温時に20日間以上湛水処理を行う。	1		
16	○			灰色かび病、菌核病、斑点細菌病、腐敗病共通対策	圃場の排水を良くする。	1		
17		○			発病茎葉は圃場外に持ち出して処分する。	1		
18	○			モザイク病（アブラムシ類）対策	シルバーマルチ、シルバーストラップマルチを使用し、アブラムシ類の飛来を防止する。	1		
19	○				定植時に粒剤又はセルトレイ灌注処理剤を施用する。	1		
20	○		○		発病株は早期に抜き取り処分する。	1		
21	○				不織布等で被覆する。	1		
22	○		○	ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、オオタバコガ、ウワバ類、灰色かび病、菌核病共通対策	セルトレイ灌注処理剤を施用する。	1		
23		○	○	ハイマダラノメイガ対策	育苗期から早期発見に努め、被害株は除去する。	1		
24		○	○	ハスモンヨトウ対策	フェロモントラップを設置して発生状況を把握し、適期防除を行う。	1		
25		○			生物農薬を使用する。	1		
26	○		○		卵塊、幼虫集団を摘除する。	1		
27		○	○	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1		
28		○	○		当該病害虫・雑草に効果のある複数の農薬がある場合には、環境に影響の少ない農薬を選択する。	1		
29		○	○		適切な飛散防止措置を講じた上で農薬を使用する。	1		
30		○	○		病害虫の発生生態を充分認識した上、発生部位に農薬がかかるよう散布する	1		
31		○	○		作用機作の異なる農薬をローテーションで使用する。さらに、当該地域の病害虫において強い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1		
32		○		作業日誌（重）	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1		
（重）栽培管理状況について記録することは重要な実践ポイント。						合計点数		
40点、32ポイント						合計実践ポイント数		
						評価結果		